



日本弁理士会 副会長立候補のご挨拶

高橋 雅和

この度、令和7年度の日本弁理士会役員定時選挙におきまして、恐縮ながらPA会からの推薦をいただきました。副会長に立候補させていただくことになりました高橋雅和(たかはしまさかず)と申します。どうぞ宜しくお願いいたします。

私とPA会との関係ですが、弁理士試験に合格した平成11年当時は、ほとんどの合格者が何らかの会派に入っていたことと思います。しかし、特にゼミなどに通わず勉強していたために「会派」の存在自体を知らず、何のつてもなかったところ、同期の友人から「入ろうよ」と誘ってもらったことがPA会入会のきっかけでした。タイミングや声をかけてくれる人が異なれば他の会派に入っていたかもしれないことを考えると、その友人に誘ってもらって本当に幸運だったと感じます。

PA会に入会してからは、かなり長い期間、時折いくつかの部会のお手伝いをさせていただくことはあったものの、それほど積極的には参加せずにおりました。しかし、2010年代半ばに、久しぶりに企画部会のお手伝いをさせていただいてからは、同世代の仲間も多くでき、積極的に関わることに楽しみを感じるようになり、良い思い出がたくさんできました。

現在のPA会は、他会派と比べても、多くの経験豊富な著名な先生方のサポートをうけながら、若い方が大いに活躍できる体制となっており、とても風通しの良い組織になっていると思います。以前の私のように、あまり活動していない方におかれても、是非、気軽に色々な企画や研修に出ていただければと思います。

また、現在相談役の渡邊敬介先生が日本弁理士会会長をされていた平成30年度には執行理事を拝命

し、色々なことを経験させていただきました。特に重要政策のひとつである「知財広め隊」を担当させていただいたことは、「弁理士と地域」「弁理士会とその外部」という、自身では全く認識できていなかった課題について考える貴重な機会となりました。この経緯から、渡邊会長のあとを引き継いだ清水会長の「絆プロジェクト」へも協力させていただく形となりました。

弁理士会の多くの会務は、弁理士会内へ向けた活動が中心になるために、地域や外部を意識する機会はありませんかと思えます。しかし、日本弁理士会が外部(団体、組織、自治体、諸官庁等)からどう見えているか、どういう関係性にあるか、また大都市以外の地域の弁理士からはどう見えているか、ということは非常に重要な視点であると感じます。特に、弁理士の業務の拡充や地位・知名度を向上するといったことを成し遂げていく場合には避けられない視点だと思えます。昨年度は著作権委員長を拝命しておりました関係で、スピーカーとして日本弁理士会の記者説明会を担当させていただきましたが、発表内容を構成する際は、上記の経験や視点が役に立ったものと感じています。

このような経験を基に、副会長を拝命することになりましたら、弁理士の業務環境や収益環境が少しでも改善し、地位や知名度が向上するよう、誠心誠意努力させていただきたいと思えます。

まことに微力ではありますが、是非、ご支援いただければ幸いです。

何卒、宜しくお願いいたします。

(文書責任者：坂本智弘)